

宇都宮市立今泉小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
目標(めあて・ねらい)の共有化と振り返る時間の確保	児童が意欲をもって授業に取り組めるような学習課題を設定していく。また、児童が課題を受け止め、見通しをもって学習に取り組む、授業の終わりには自らの学びを振り返る時間を確保できるようにする。	「授業の中で、目標が示されている」の設問に4・5年生とも9割以上が肯定的回答をしていた。ただし、学年間に差があり、今後も継続して児童自身が課題意識をもち、意欲をもって授業に取り組めるような目標の共有化に努めていく必要がある。「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の設問に対しては、肯定的な回答が市・県の平均より低いことから、授業の終わりには本時の学びの成果を確認し、次時への学習に見通しをもつ時間を確保することを意識していく。
コミュニケーション能力の向上を目指した授業の工夫	授業の中で多様な形態で、自分の考えと友だちの考えとを比較し、対話できるような場面を設定していく。また、対話を通して学び合い、自分の思いや考えを表現できるような児童を育成していく。	「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である」の設問に肯定的に回答した児童の割合は、市・県の平均と比べ、4年生はやや低く、5年生はやや高い。しかし、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と回答した児童の割合は、4・5年生ともに、95%を超え、市や県の平均より高かった。今後、自分の意見に自信をもって発表することができるように支援していく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4・5年生それぞれの課題点として、新型コロナウイルス感染症対策による、学習活動の制限が原因と考えられる数値の低さが見られた。	新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いつつ、主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、授業改善に取り組み、学習活動の質を向上させていく。	話し合い活動を、密を避けながら実施可能な範囲で積極的に取り入れたり、一人一台端末を活用して協働的に学ぶ機会を生みだしたりすることで、対話的に学びを深める場面を増やしていく。また、理科の実験などの活動を密を避けながら行う工夫として、一人一台端末をはじめとしたICT機器を活用するなどして、体験的に学べる場面を増やしていく。